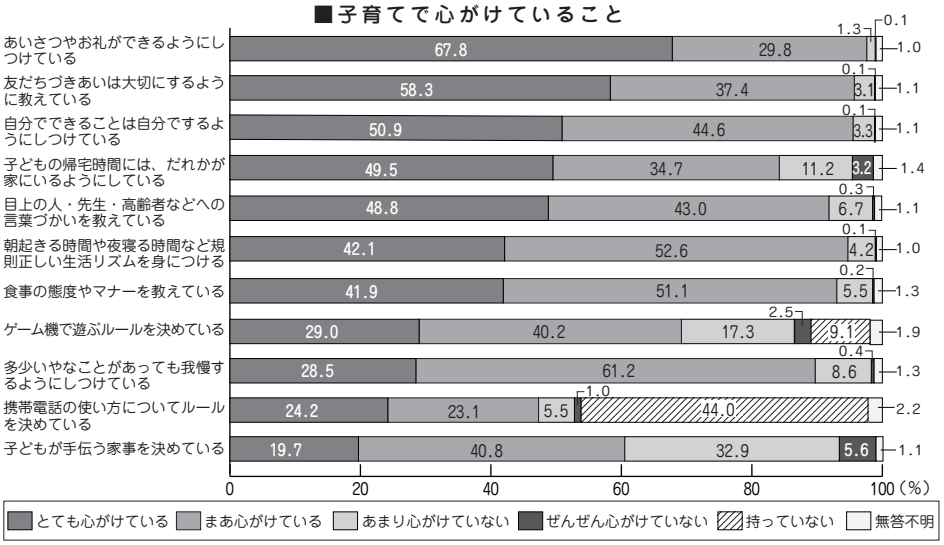
# 子育て ～第３回～（2009 年版）

## 【3-1】母親が心がけるしつけは人間関係の大切さ

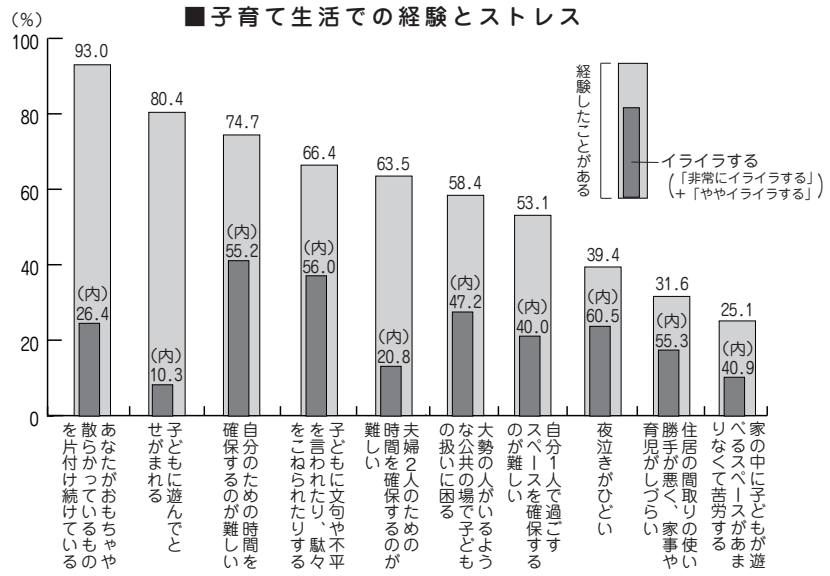



出　　典：「第３回子育て生活基本調査報告書」Benesse 教育研究開発センター（2008）
調査対象：首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学１年生から中学３年生の子どもをもつ保護者 7,282 名
＊分析は母親のみ 6,770 名）

小中学生の子どもをもつ母親に、子育てで心がけていることをたずねた調査結果をみると、「とても心がけている」割合がもっとも高かったのは、「あいさつやお礼ができるようにしつけている」（67.8%）で、次いで「友だちづきあいは大切にするように教えている」（58.3%）、「自分でできることは自分でするようにしつけている」（50.9%）となっている。母親の多くが子育てにおいて人間関係を大切にすることや、自立に向けた基礎的なしつけを中心に心がけている様子がうかがえる。

一方、中学生で所有率が６割を超えた携帯電話（『携帯電話』第３回【3-1】参照）については、携帯電話を持っている小学生の母親の 52.7%、中学生の母親の 40.9%が携帯電話の使い方について「とても心がけている」と回答しており、心がけていないという母親は少ない。小学生に携帯電話を持たせる際には、しつけに心がけている様子がうかがえる。

## 【3-2】子育てのストレス、自分の時間の確保が多い




出　　典：「第１回妊娠出産子育て基本調査報告書」Benesse 次世代育成研究所（2007）
調査対象：第１子を持つ、または妊娠中の妻・夫 4,479 名

育児期の妻・夫に、乳幼児のいる生活の中でストレスになり得る 12 項目について経験の有無と、ストレスの度合いをたずねた調査結果から、妻のストレスについて 10 項目を取り上げてみた。

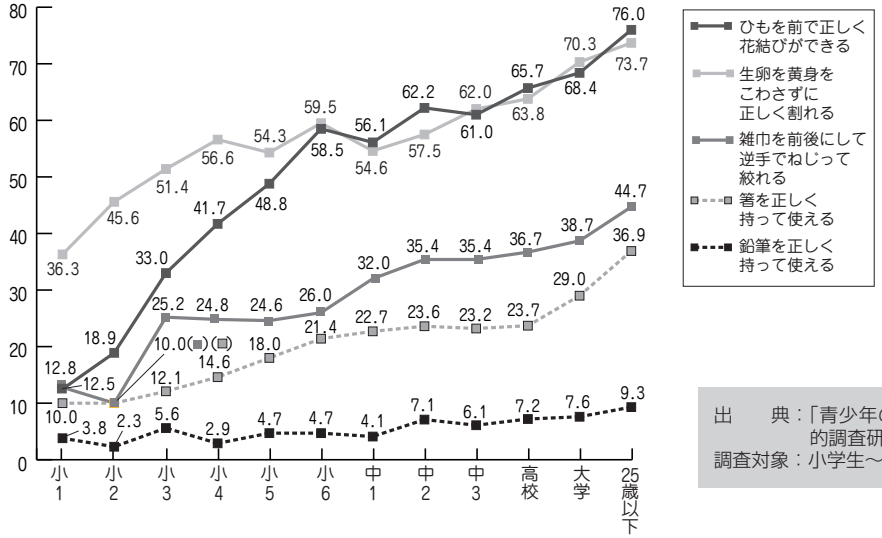
育児期の妻がストレスを「経験したことがある」と回答したものの上位３項目は、「あなたがおもちゃや散らかっているものを片付け続けている」（93.0%）、「子どもに遊んでとせがまれる」（80.4%）、「自分のための時間を確保するのが難しい」（74.7%）となっている。

経験している割合が高く、ストレスも強く感じている（「非常にイライラする」＋「ややイライラする」）ものは、「自分のための時間を確保するのが難しい」（経験率 74.7%、ストレス 55.2%）、「子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする」（経験率 66.4%、ストレス 56.0%）であった。子どもとの関係において、文句や不平を言われたり駄々をこねられたりすることにはストレスを感じる人が多いが、遊んでとせがまれることに対しては、ストレスと感じる人は少ないことがわかる。

一方、経験したことがある割合は低いが、経験した人のストレスが高いものは、「夜泣きがひどい」（経験率 39.4%、ストレス 60.5%）で、経験した人の中での割合としては第１位となっている。

## 【3-3】鉛筆を正しく持てる小・中・高生は１割以下

■子どもの生活技術（正しくできる割合）




出　　典：「青少年の生きる力を育むための総合的調査研究」文部科学省（1998）
調査対象：小学生～大人 2,739 名

生活技術の実技調査から、子どもがふだん接する機会が多い５項目を取り上げてみた。

正しくできる割合が高かったのは、「生卵を黄身をこわさずに正しく割れる」「ひもを前で正しく花結びができる」で、いずれも小学校６年生で５割を超えている。ひもの花結びについては、小学校１年生では 12.5%だったものが、６年生では 58.5%と大きく増加し、衣服や靴などのひもを結ぶ機会が増えるにつれ、折々大人の指導がよく行われているものと思われる。

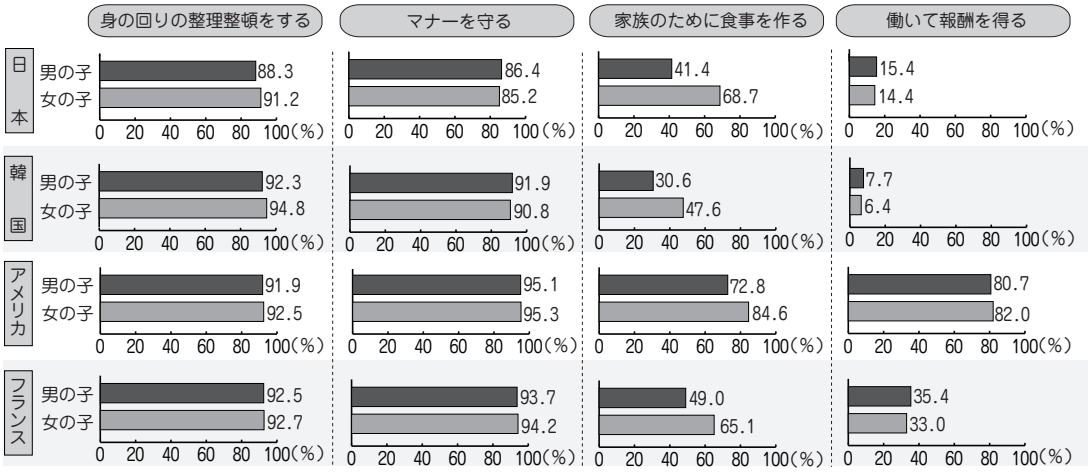
「箸を正しく持って使える」割合は、年齢とともに増える傾向にあるものの、小学校全体で 15.7%、中学校全体で 23.1%、高校で 23.7%と、２割強にとどまっている。親の世代（26 歳～ 50 歳）をみても、いずれも 50%台前半で推移しており、約半数の親が箸を正しく使えていないことがわかる。このことが子どもたちに大きな影響を与えていると思われる。

「鉛筆を正しく持って使える」割合は、どの学齢段階においても１割以下と極端に低く、加齢による増加もあまりみられない。親の世代をみても、30 歳台～ 40 歳台の前半までは 15%前後、46 ～ 50 歳は 27.5%と、正しく持てる人が３割にも満たないことがわかる。鉛筆の持ち方は低年齢のうちに身につき、その使い方が固定してしまうものと思われる。

さらに、意識調査と実技調査の結果を対比させてみると、鉛筆を正しく持って使えていると思う割合と実技結果の差は、各年齢層においても 38 ～ 71 ポイントの差があり、意識と実態には大きなズレがあることがわかる。

## 【3-4】15 歳のときに一人でできると思うこと、日本、韓国で低い傾向

■子どものしつけ　15歳のときに一人でできると思うもの（複数回答）




出　　典：「家庭教育に関する国際比較調査報告書」独立行政法人国立女性教育会館（2005）
調査対象：日本、韓国、タイ、アメリカ、フランス、スウェーデンの０～ 12 歳までも子どもと同居している親、またはそれに相当する人（サンプル数は各国とも約 1,000）

家庭教育に関する国際比較調査から、自立のしつけについて、15 歳のときに一人でできると思うものについてたずねた結果をみてみると、「身の回りの整理整頓をする」「マナーを守る」ことができると思う親は、日本、韓国、アメリカ、フランスとも 85%以上で、ほとんどの子どもは「一人でできる」と考えられている。

「家族のために食事を作る」は、アメリカで約８割の親ができると思っているが、日本（54.9%）、韓国（38.5%）、フランス（56.7%）では低く、国によって差が生じている。これを子どもの性別でみると、４か国とも女の子への期待が大きいが、その差がもっとも大きいのは日本で、27.3 ポイントと他の国を大きく上回っている（フランス 16.1 ポイント、韓国 17.0 ポイント、アメリカ 11.8 ポイント）。

「働いて報酬を得る」も国によって差が現れた項目で、アメリカは、男女ともに８割以上が「できる」と考えられており、他の３か国に比べて圧倒的に高い割合を示している。